

# 都市再生プロジェクト（第四次決定）

（平成14年7月2日）  
都市再生本部決定

## ．東京圏におけるゲノム科学の国際拠点形成

先端技術を巡る国際競争が激化する中で、我が国が、今後の成長分野であるライフサイエンスについて、国際競争力の確保を図るとともに、新規産業の創出等を通じた経済の活性化を図ることが極めて重要である。

このため、ライフサイエンスの推進基盤であるゲノム科学研究における取り組みが進む東京圏において、大学や試験研究機関、医療・製薬産業等関連産業の集積拠点を形成するとともに、各拠点間の産学官連携を推進することにより、ゲノム科学の国際的拠点を形成する。

これにより、経済の活性化と良好な街づくりを通じた都市の再生を図るとともに、大阪圏における取り組みと併せて、我が国の国際競争力の強化を図る。

### 1．ゲノム科学に関する拠点形成

東京圏でゲノム科学の研究機関や関連産業が集積し、新たな街づくりが進む横浜臨海部、東京臨海部や、千葉かずさアカデミアパーク、柏・東葛地域、筑波研究学園都市において、各々の特徴を活かしつつ、基礎研究から医療・製薬、食品等への応用研究及び産業化までを一貫して行う拠点を形成するため、研究開発機能の強化、起業化支援等に必要な施策を集中的に実施する。併せて、海外からの研究者も含め、良好な研究・都市環境の整備を図る。

### 2．各拠点間の相互連携の促進と国における推進体制の構築

上記各拠点をはじめとして、東京圏に広く展開する研究機能や関連産業の相互連携・補完を図り、先端的な研究開発と新規産業の創出を促進するため、各地域の大学、研究機関、産業界、関係地方公共団体等からなる産学官の連携・推進体制の構築を促進

し、共同研究の実施や情報・交通ネットワークの強化・充実等により人材と情報の交流を強化する。

また、このような連携体制を支えるため、国においても関係各省等からなる協議の場を設け、総合的な支援を集中的に推進する。

## ・北部九州圏におけるアジア産業交流拠点の形成

アジアとの近接性と歴史的つながりを持ち、韓国、中国をはじめとするアジアとの交流や関係企業等の活動が活発化する北部九州圏において、人・もの・情報のゲートウェイ機能を活用しつつ、以下の取り組みを推進することにより、アジアにおける新しい産業交流拠点の形成を図り、我が国の国際競争力の強化に資する。

### 1．国際的に魅力あるビジネス環境の創出

福岡・北九州都市圏において、国際的に魅力あるビジネス環境を創出するための取り組みを総合的に推進することにより、アジアを舞台として経済活動を行う国内外企業の集積を図る。

この一環として、特に、豊かな生態系に融け込んだ「環境共生国際都市」づくりを進める博多湾東部臨海部において、アジアと協業する新たなビジネス拠点を形成するため、ビジネス支援機能の強化、外国人も暮らしやすい豊かな住環境づくり等を推進する。

併せて、福岡西部地域において整備されつつある大学を核としてIT等先端技術研究開発機能の集積を促進するとともに、響灘臨海部において、大学等の国際的取り組みと連携して、環境産業・研究機能の集積を促進することにより、新産業やビジネス機会の創出を図る。

### 2．人材育成機能の強化と人的交流機会の拡大

アジアの将来を担う人材の育成と活用を図るため、大学等とも連携して、人材育成機能、留学生支援機能の一層の強化を図る。併せて、観光振興事業・交流事業をはじめ、各種国際会議・イベントの開催や外国人にやさしい街づくり等の取り組みを積極的に展開し、人的交流機会の拡大を図る。

### 3．推進体制の構築

上記の取り組みをより効果的に推進するため、産学官の連携・推進体制の強化を図る。

## ・ 地方中枢都市における先進的で個性ある都市づくり

地方ブロック経済の中心として、我が国の経済の大きな牽引役である地方中枢都市において、これまで蓄積された都市資産を活用した先進的で個性ある都市づくりの取り組みに着目し、その推進により都市の再生を図る。

### 1．人と環境を重視した都心づくり ～札幌～

明治初期に開拓使により骨格が形成された札幌市の都心は、今日まで計画的に都市基盤の整備が進められてきた。これら前世紀までに築かれた基盤と世界有数な多雪寒冷の大都市という地域特性を活かし、次の世紀に引き継げる人と環境を中心に据えた都心づくりを推進する。

- ( 1 ) 歩いて暮らせる「豊かで快適な都心」を創造するため、都心通過交通の大幅な抑制に取り組むとともに、都心3軸（札幌駅前通、大通、創成川通）を基軸とした地下歩行空間、親水空間、モール化などの整備・検討を推進する。
- ( 2 ) 雪の冷熱エネルギーを活用した先駆的な地域熱供給システムの導入をはじめ、産学官が連携し、環境負荷の低い新たな「エネルギー有効利用都市」の実現を目指す。

### 2．緑美しい都市の実現 ～仙台～

江戸時代の伊達藩政以来の「緑」を受け継ぎ「杜の都」として広く知られている仙台市において、長期的な視点から、都市構造の転換も踏まえた戦略的な取り組みを行うことにより、世界に誇れる「緑美しい都市」の実現を目指す。

- ( 1 ) このため、既存の緑を活用しつつ、「百万本の森づくり」等官民協調して緑化を推進するとともに、新たに都心部の既存の広幅員道路空間を再構成するなどして、連続性を持った緑の創出に取り組む。
- ( 2 ) 併せて、都心部の自動車交通量を削減するため、新たな軌道系交通機関の整備についての検討を進めるとともに、軌道系交通を基軸として土地を高度利用するなど都市構造の転換を図ることなどにより、公共交通機関の利用を促進する。

### 3 . 水の都の再生 ~ 広島 ~

太田川デルタ上に発達し、かつて河川と密接なつながりを有した広島市において、戦災復興事業により整備された河岸緑地等の豊かな水辺を、民間の創意工夫等を最大限生かすうる空間として活用し、海外からの来訪者にも誇りうる「水の都広島」にふさわしい都市空間を創造する。

- ( 1 ) これを実現するため、全国に先駆けた試行的な取り組みとして、モデル地区において一定期間、沿川の民間店舗と一体化したオープンカフェや船上レストラン等、市民及び民間の自由で多様な活用・取り組みに対し、河川及び河岸緑地を積極的に開放する。
- ( 2 ) これと併せ、市民・民間の活動を支援する親水護岸等の整備を推進するとともに、沿川建築物の構造・デザインの誘導等により、沿川景観の向上や川面に顔を向けたまちなみの整備等を推進する。